



SHINKA 2019

課題提起型デジタルカンパニーへ向けて



KONICA MINOLTA

コニカミノルタ株式会社  
2017年度第3四半期

# 決算説明会

常務執行役 畑野 誠司

2018年 2月1日

# 2017年度 第3四半期 業績サマリー

【億円】

	2017年度 3Q累計	2016年度 3Q累計	前期比	為替の影響を 除いた前期比	2017年度 3Q	2016年度 3Q	前期比	為替の影響を 除いた前期比
<b>売上高</b>	<b>7,503</b>	<b>6,996</b>	+7%	+2%	<b>2,622</b>	<b>2,377</b>	+10%	+4%
<b>営業利益</b>	<b>291</b>	<b>345</b>	△16%	△21%	<b>86</b>	<b>159</b>	△46%	△67%
<small>親会社の所有者に帰属する</small> <b>当期利益</b>	<b>186</b>	<b>249</b>	△25%		<b>51</b>	<b>117</b>	△56%	
<b>為替レート</b>								
<b>USドル</b>	111.70	106.63	5.07		112.98	109.30	3.68	
<b>ユーロ</b>	128.53	118.02	10.51		133.01	117.78	15.23	

## 売上高

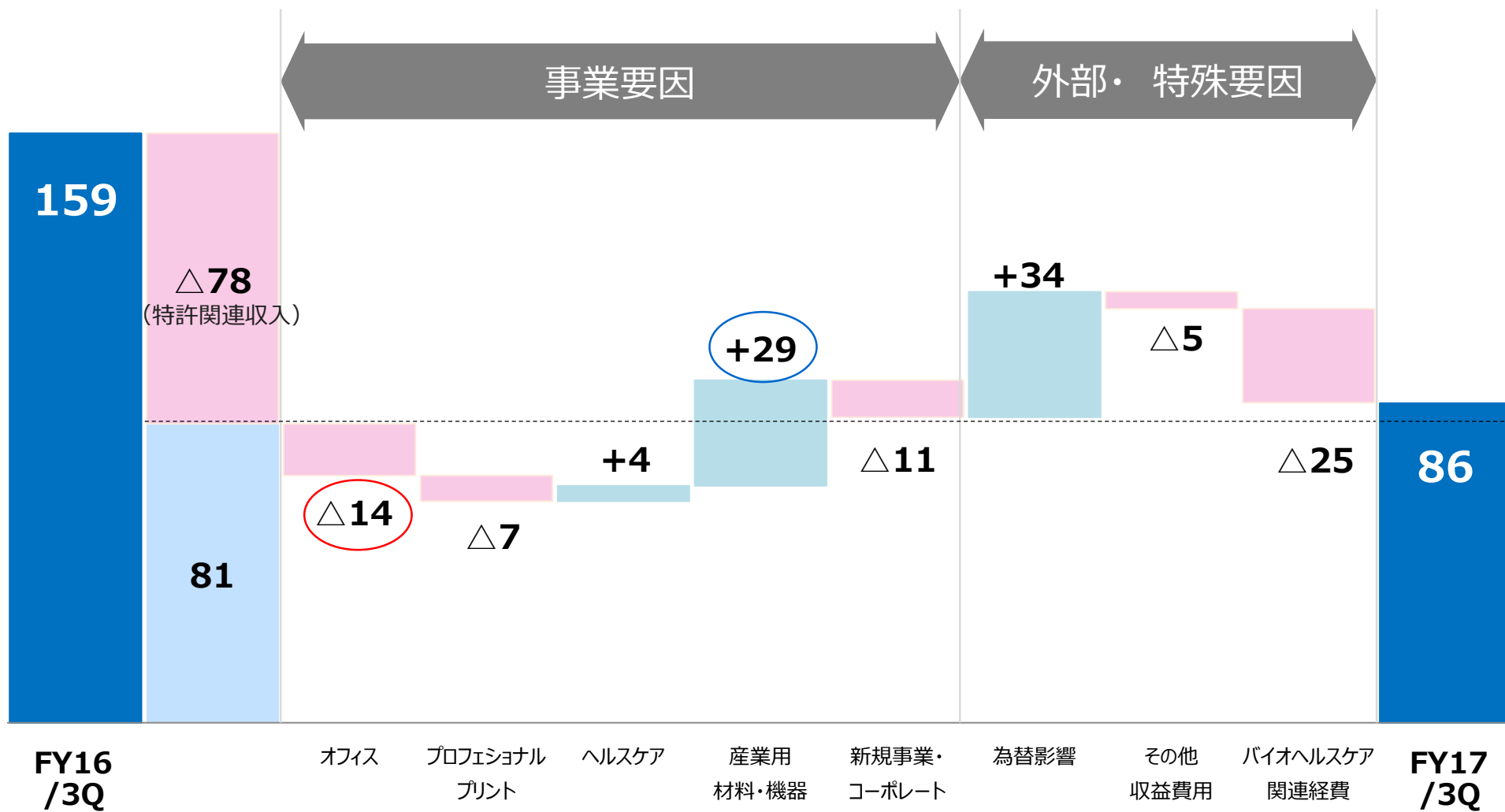
- 全ての事業セグメントで増収となり、全社では対前年7%増。2Qに引き続き3Qも2桁増収。
- オフィスで北米・中国などが堅調を維持、ヘルスケアは北米でのDR販売が拡大し、産業用材料・機器では計測機器が引き続き大幅増収。

## 営業利益

- 全社では16%の減益。前年に計上した特許関連収入78億円が一過性の差異として影響。
- オフィス・プロフェッショナルプリントは累計では減益となるも、2Qからの採算改善傾向が継続。ヘルスケアは増収による増益、産業用材料・機器は、上期に続き大幅増益。

# 2017年度3Q 営業利益 増減分析

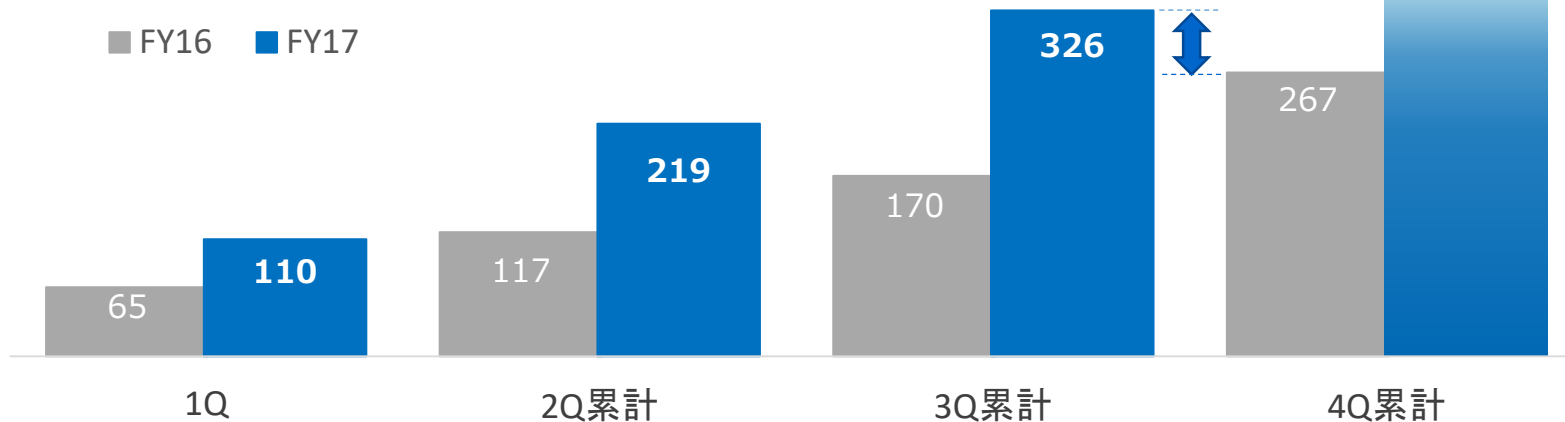
【億円】



全体	■ 9か月通じて順調な進捗を維持。売上高はすでに昨年通期を上回る。
光源色	■ OLEDディスプレイの新規投資に支えられ好調な売上を維持。アジアにおける新たな需要開拓もあり、前年同期比で売上は倍増。
M&A効果	■ IS社(独), Radiant社(米)共に前年同期比の売上高を上回り、着実に買収効果達成。
物体色	■ 9か月通じて安定して売上を伸ばし、前年同期比で2割近い増収。

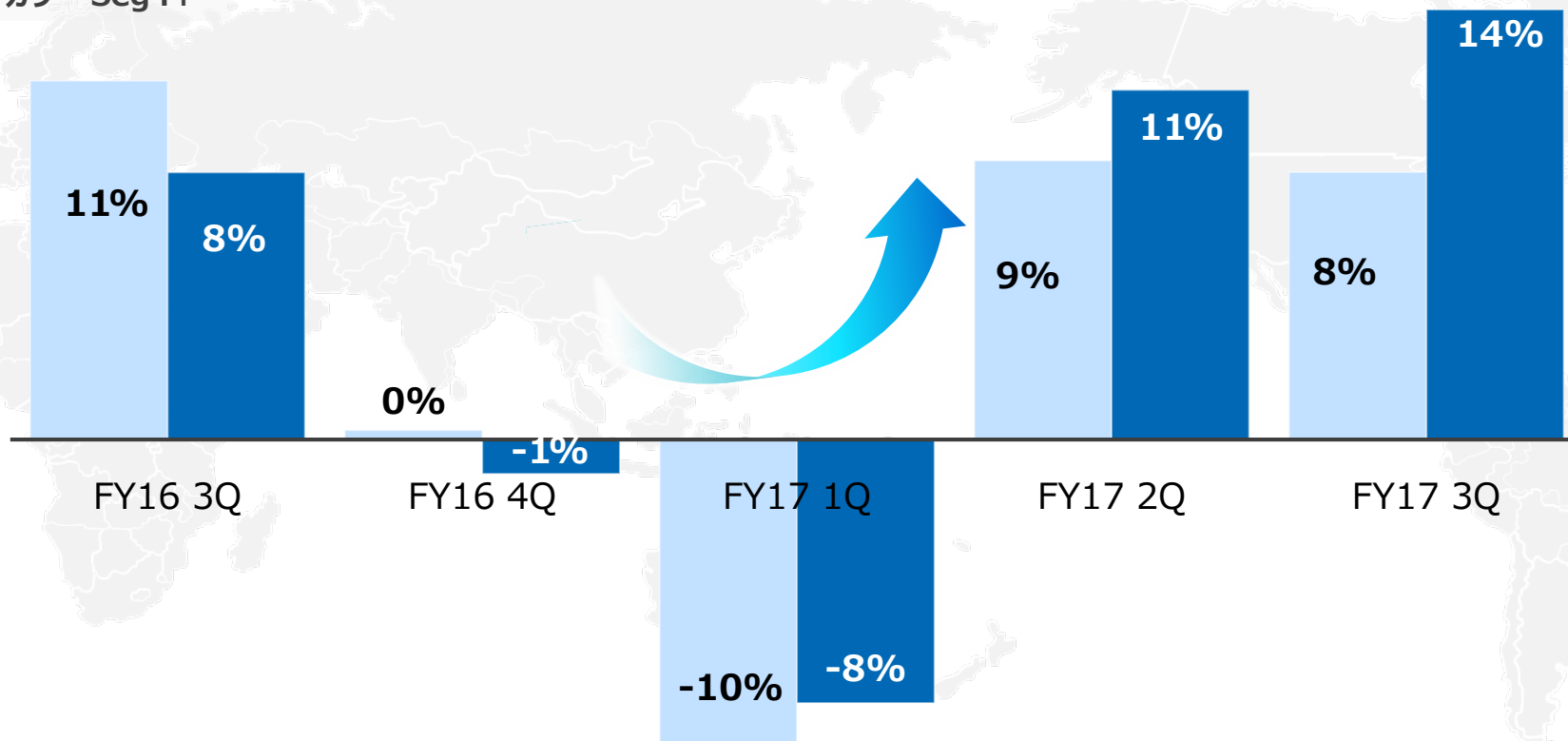
## 計測機器売上推移

【億円】



- A3 カラー
- A3 カラー Seg4+

## A3オフィスカラーMFP販売台数 対前年伸張率



### 3Q販売状況

北米、中国を中心にカラー機、特にSeg4+が対前年を上回る販売台数を達成

- A3カラーの販売台数もQ2に続き前期比プラス **YoY +8%**
- Seg4+の販売はQ2に続き好調を継続 **YoY +14%**

## IQ-501 当社独自の強み

計測技術を融合させることで印刷プロセスにおける省力化、カラーマネジメントのニーズに応えた製品

### IQ-501



インテリジェントクオリティ  
オプティマイザー



- デジタル印刷システム内蔵センサーを開発自動化、色再現性を向上
- コニカミノルタグループの強み最大化

## 印刷企業様の経営課題

- 色管理、印刷位置調整の管理コストの削減
- 操作ミスに伴う廃棄ロス、業務効率低下の改善、マシン稼働率の向上
- オペレーターのスキルに依存しない運用の安定化

## IQ-501の提供価値

オペレータ業務を効率化する  
**スキルレス、レスヒューマンタッチ、自動化**による色管理印刷位置調整を提供。



- 手作業の調整時間を大幅削減
- 色ズレ/表裏ズレ起因の廃棄削減
- 専門スキル不要

### <現状評価及び今後の展開 >

- 顧客評価が高く、**装備率が順調に向上**
- **モノクロプロダクション機にも横展開**、非価格競争力を強化

# 2017年度 第3四半期 セグメント別売上高

【億円】

	2017年度 3Q累計	2016年度 3Q累計	前期比	為替の影響を 除いた前期比	2017年度 3Q	2016年度 3Q	前期比	為替の影響を 除いた前期比
オフィス事業	4,277	4,073	+ 5%	△ 1%	1,482	1,385	+ 7%	△ 0%
プロフェッショナルプリント事業	1,550	1,482	+ 5%	△ 1%	539	511	+ 5%	△ 1%
ヘルスケア事業	669	634	+ 6%	+ 3%	240	220	+ 9%	+ 7%
産業用材料・機器事業	901	740	+ 22%	+ 19%	301	241	+ 25%	+ 21%
産業用光学システム	343	188	+ 83%	+ 74%	111	61	+ 83%	+ 72%
材料・コンポーネント	558	553	+ 1%	△ 0%	190	180	+ 5%	+ 4%
新規事業・コーポレート他	105	68	+ 56%	+ 48%	60	20	+ 201%	+ 189%
<b>全社合計</b>	<b>7,503</b>	<b>6,996</b>	<b>+ 7%</b>	<b>+ 2%</b>	<b>2,622</b>	<b>2,377</b>	<b>+ 10%</b>	<b>+ 4%</b>

# 2017年度 第3四半期 セグメント別営業利益

【億円】

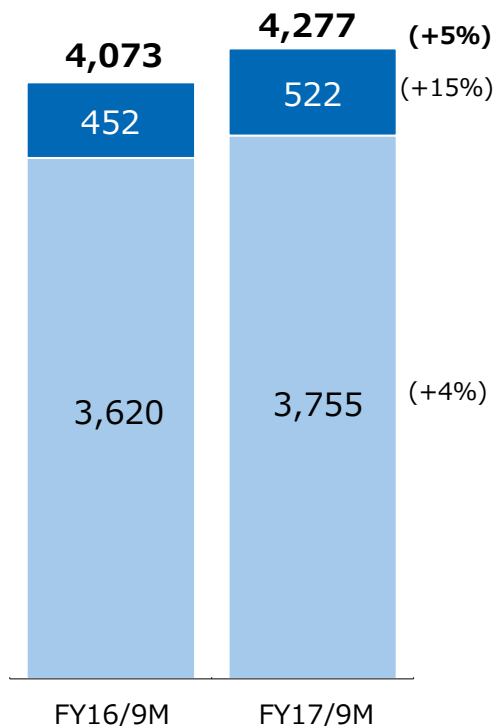
	2017年度 3Q累計	2016年度 3Q累計	前期比	為替の影響を 除いた前期比	2017年度 3Q	2016年度 3Q	前期比	為替の影響を 除いた前期比
オフィス事業	299	313	△ 4%	△ 2%	98	96	+ 2%	△ 19%
プロフェッショナルプリント事業	51	68	△ 25%	△ 48%	26	25	+ 6%	△ 37%
ヘルスケア事業	39	15	+ 157%	+ 133%	10	3	+ 266%	+ 162%
産業用材料・機器事業	176	168	+ 5%	+ 1%	56	104	△ 46%	△ 48%
新規事業・コーポレート他	△ 274	△ 219	-	-	△ 103	△ 68	-	-
全社合計	291	345	△ 16%	△ 21%	86	159	△ 46%	△ 67%



## 売上高

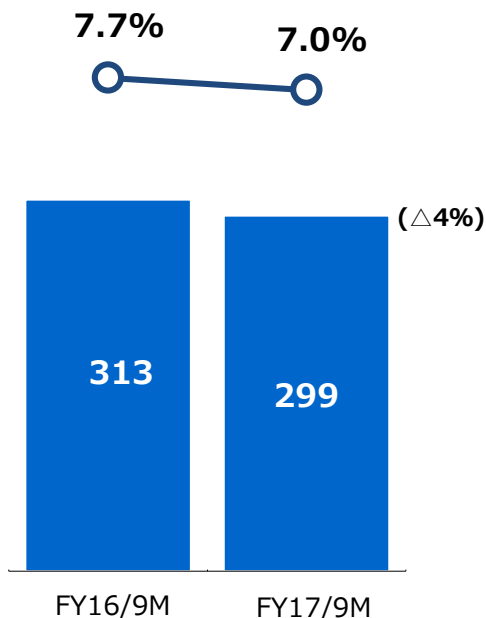
■ ITサービス・ソリューション  
■ オフィス

【億円】



## 営業利益

【億円】



## 3Qの概況

### ITサービスソリューション

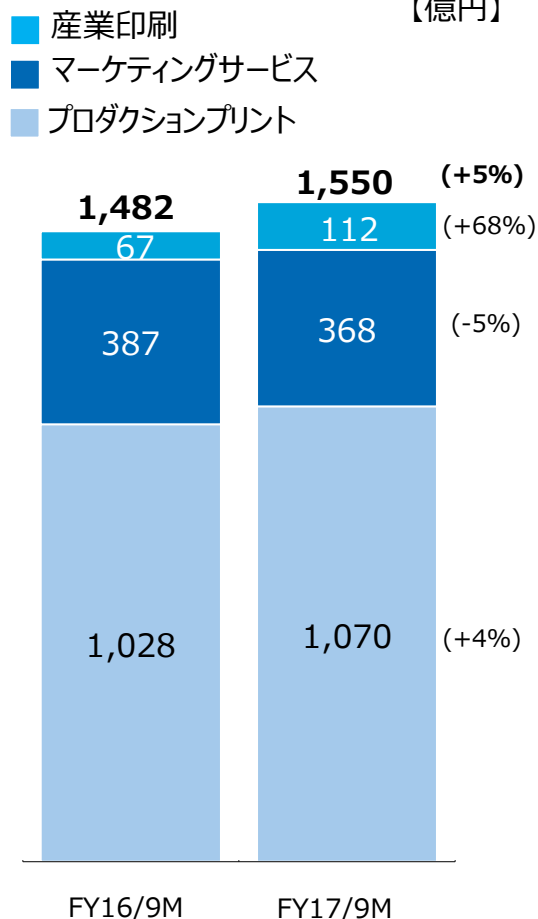
- 欧州・アジアでも中堅・中小企業向けITインフラ管理サービスを開始。
- 米国でIP電話のホストサービスが好調。医療機関向けITインフラ管理サービスの提供も開始。

### オフィス

- 中国は2Qに続き、A3カラー機の販売が倍増するなど好調を継続。
  - 北米はA3カラー機が好調継続も、欧州は前年の大型案件設置の反動があったこともあり前年比で販売減。
  - 欧州大手鉄鋼メーカーや世界的次世代エネルギー企業など大型契約を複数獲得。
- OPS売上: 270億円 (前期比:+11%)  
GMA売上: 80億円 (前期比:+19%)

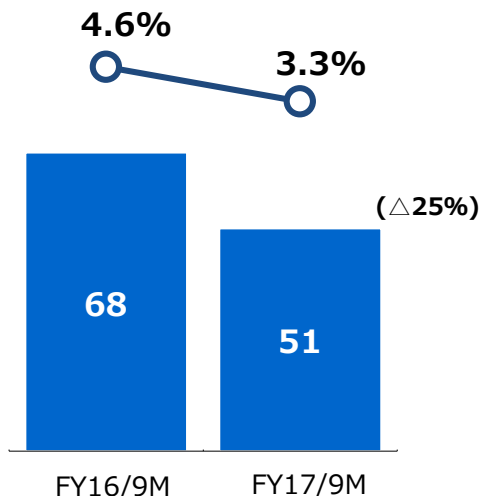
## 売上高

【億円】



## 営業利益

【億円】



## 3Qの概況

### 産業印刷

- 欧米を中心にインクジェットデジタル印刷機の「AccurioJet（アキュリオジェット）KM-1」、フランスMGI社製のデジタル加飾印刷機、及びラベル印刷機の販売が拡大。

### マーケティングサービス

- 大手顧客でのマーケティング費用抑制が継続も、3Qでは回復基調。案件獲得数増加。
- キンコーズは日本で法人・店舗共に好調継続。

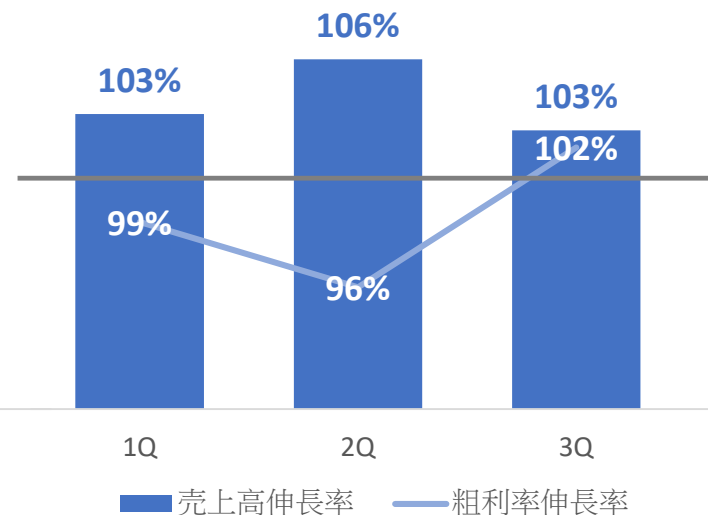
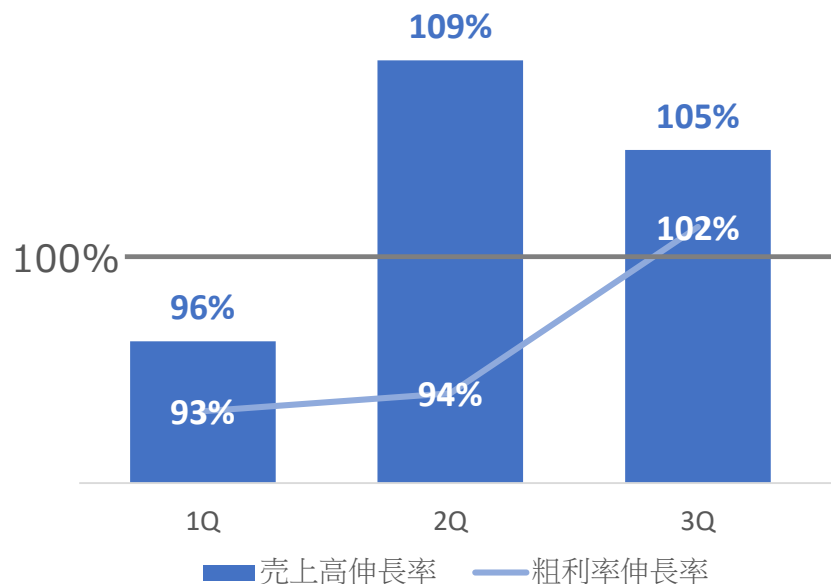
### プロダクションプリント

- 当社独自機能である品質最適化ユニット「IQ-501」の提供価値が顧客に浸透。
- 最上位機種「AccurioPress C6100」シリーズは、印刷顧客に好評も商談長期化により本格利益貢献は4Q以降に。
- 中国を初め、新興国向け好調。

## オフィス

## プロダクションプリント

対前年売上高・粗利率前年伸長率



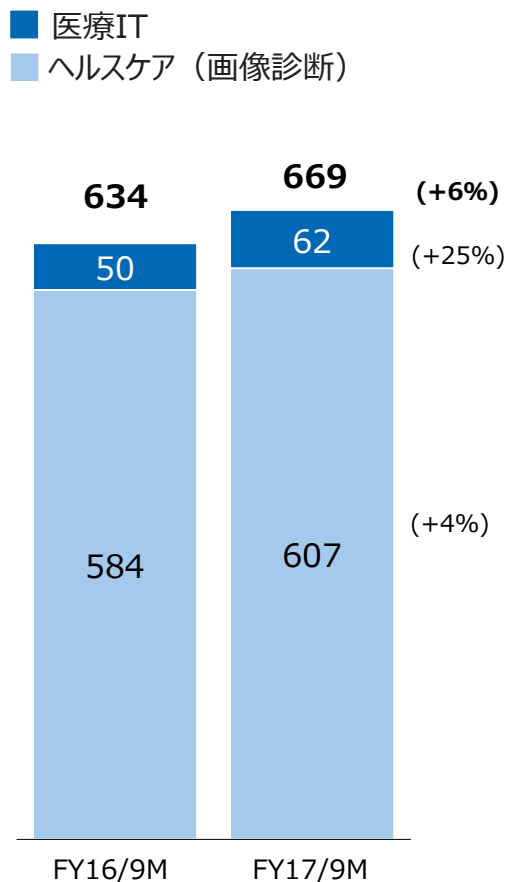
粗利率改善施策成果

- C759シリーズ（カラー65/75枚機）ローンチ
- カラー高速機シフトによる採算改善
- ハイブリッド販売
- MIF・PV増によるノンハード改善
- 案件採算選別、中堅案件拡大
- 製造原価低減効果の拡大

- IQ-501の付加価値浸透による粗利率向上
- C6100シリーズローンチ・本格寄与
- MIF・PV増によるノンハード増加継続
- 中国・インド販売拡大

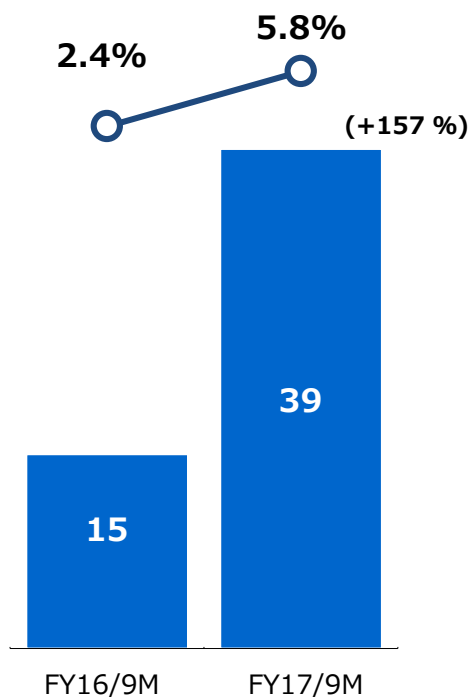
## 売上高

【億円】



## 営業利益

【億円】



## 3Qの概況

### ヘルスケア (画像診断)

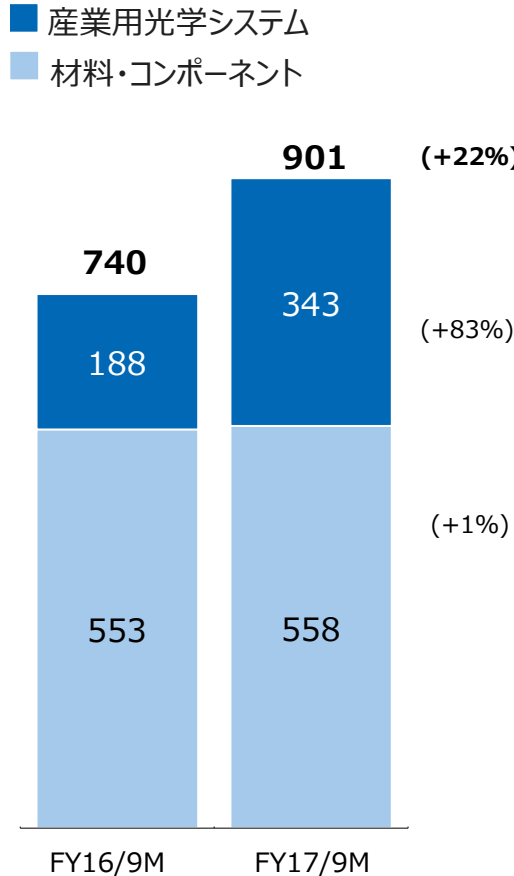
- X線：DRはX線システムメーカーとの協業強化と大型案件獲得で米国を中心に販売数量拡大。
- 超音波製品：整形外科領域でのジャンルトップ確立で、日本の販売は好調を維持。米州、中国でも前年比で販売数量伸長。
- 保守契約も順調に伸長。

### 医療IT

- 米国の販売増加が売り上げに貢献。
- 保守サービスの売上が順調に拡大。

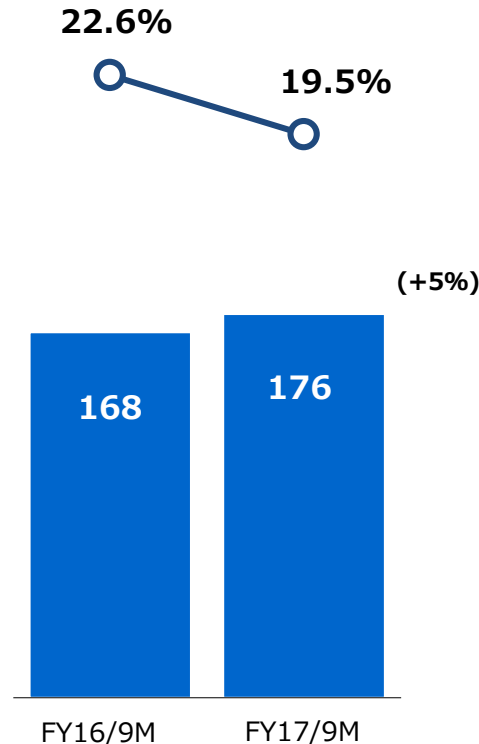
## 売上高

【億円】



## 営業利益

【億円】



## 3Qの概況

### 産業用光学システム

- 計測機器：光源色領域では、アジアを中心とした新規需要に応えることで販売数が前年比で大幅増加。物体色領域も着実に販売数を伸ばし、全体として大幅な増収。

### 材料・コンポーネント

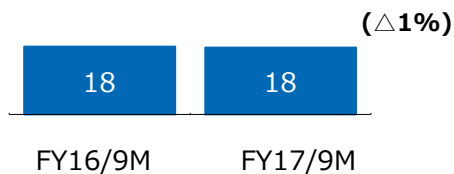
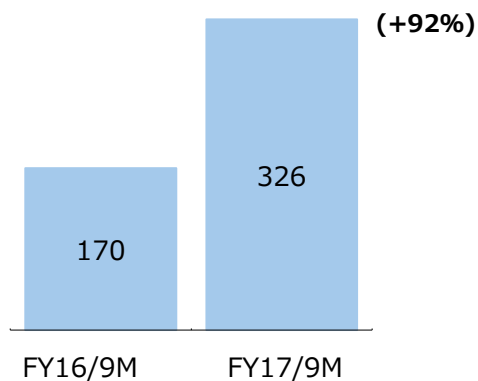
- 機能材料：液晶TV大画面化を背景に、耐水型新VA-TACフィルムやIPS向けZero-TACフィルムなど高付加価値製品販売シフトを加速し、価格圧力を受けながらも前年並みの売上高確保。
- 光学コンポーネント：最終製品需要減で前年比やや減収。
- IJコンポーネント：欧州/アジアの販売が牽引し増収。

# 産業用光学システム & 材料コンポーネント売上推移：3Q累計

## 産業用光学システム 【億円】

計測機器

映像ソリューション

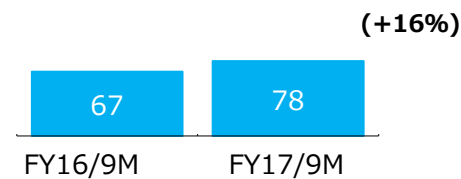
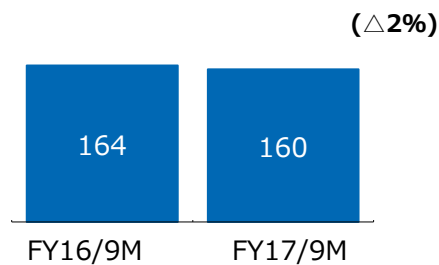
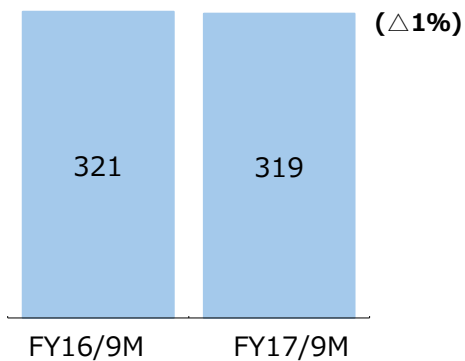


## 材料・コンポーネント 【億円】

機能材料

光学コンポーネント

IJコンポーネント



10月

11月

12月

FY2017 4Q

Ambry Genetics社  
買収完了



Invicro社  
買収完了



プレジジョン・メディシン  
本部を設立（米国）

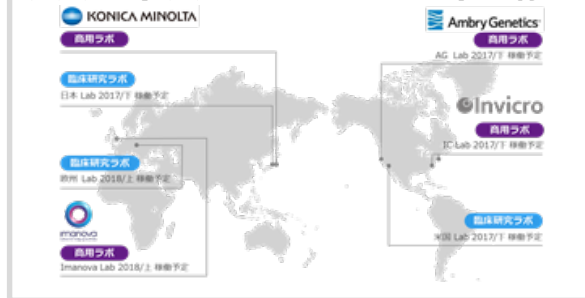
CEO  
藤井 清孝

CTO  
腰塚 國博

タウンミーティングを実施



スマートスーパーラボを日・米で稼働



# 全社バランスシート：Ambry社、Invicro社買収の影響

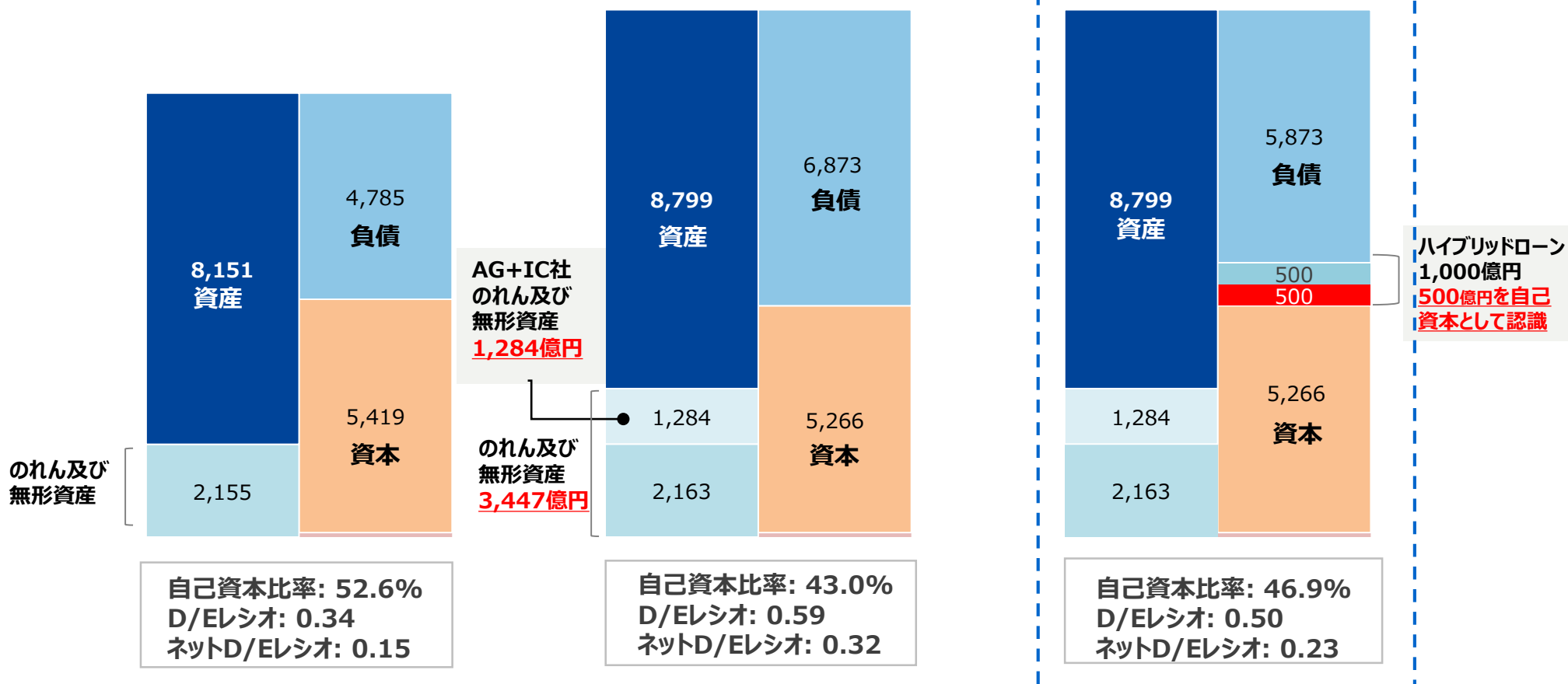
- 資本：資本性を認識できるハイブリッドローン（1,000億円）での調達。格付はA格。
- 資産：2社の買収に伴い「のれん+無形資産」が12月末時点において1,282億円増加。

**FY2017 9末**

**FY2017 12末**

**ハイブリッドローン1,000億円の  
50%を自己資本と認識したケース**

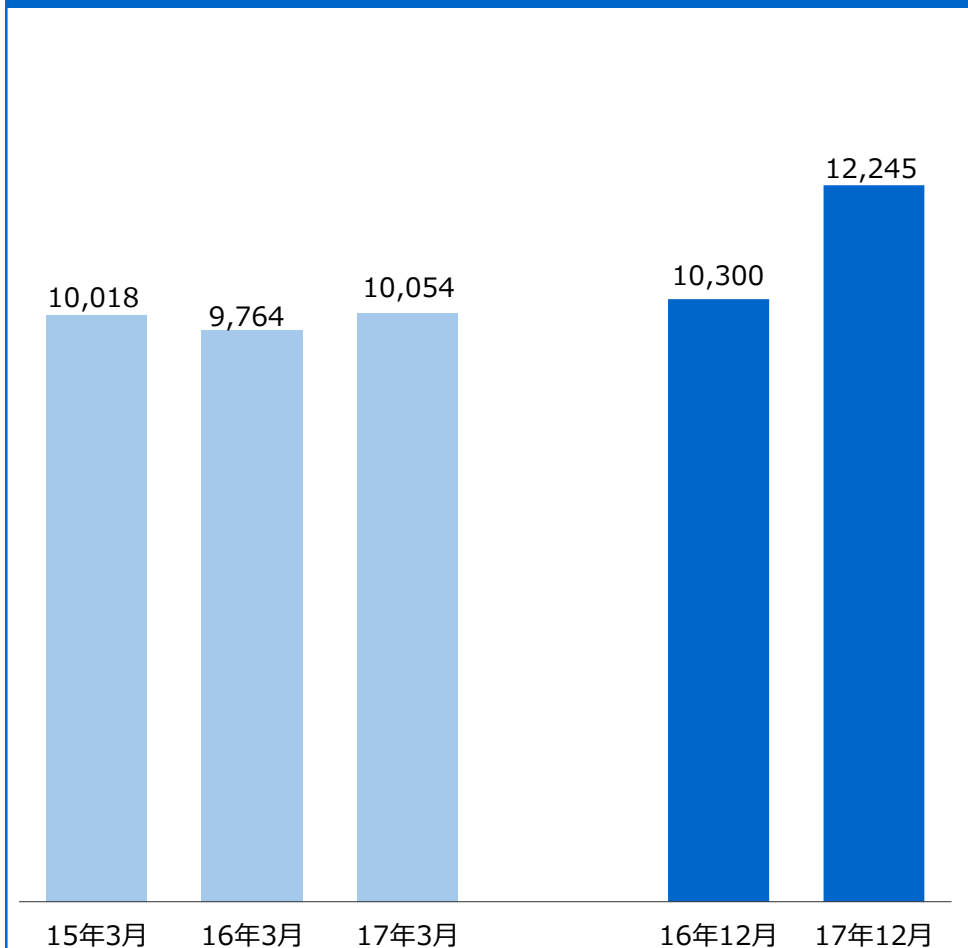
【億円】





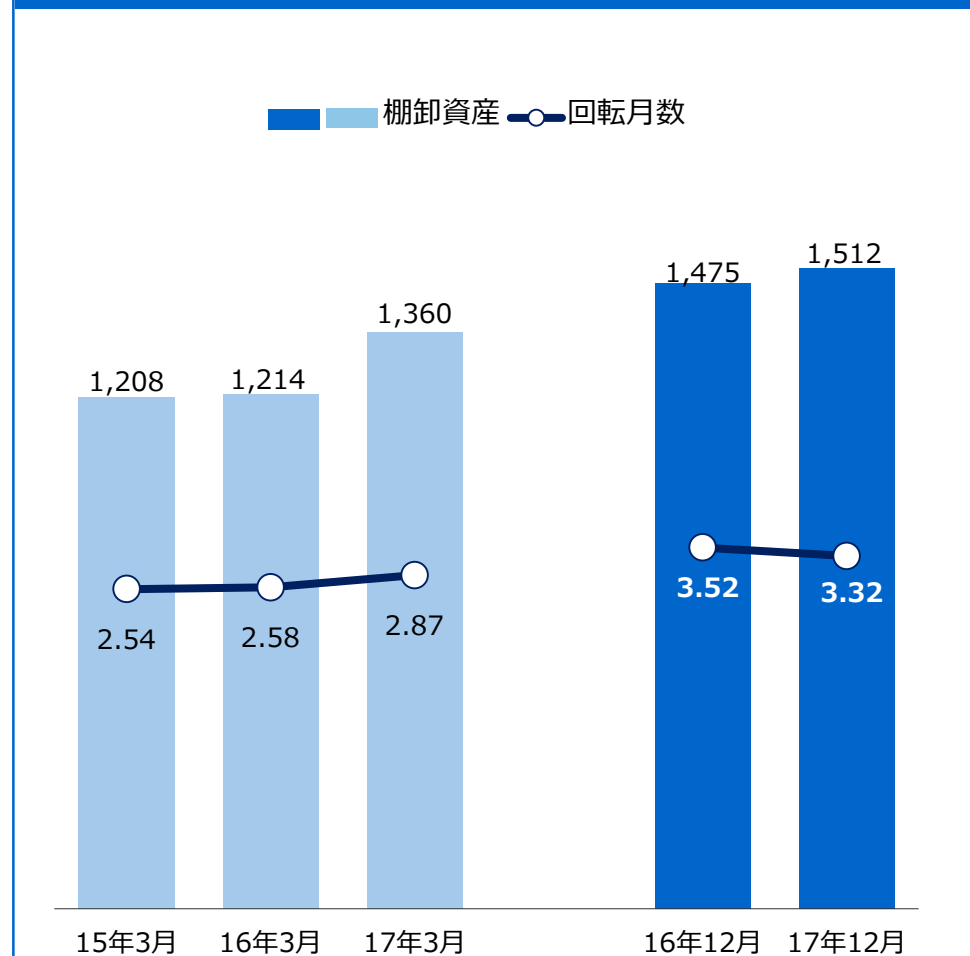
## 資産合計（総資産）

【億円】



## 棚卸資産・回転月数

【億円】

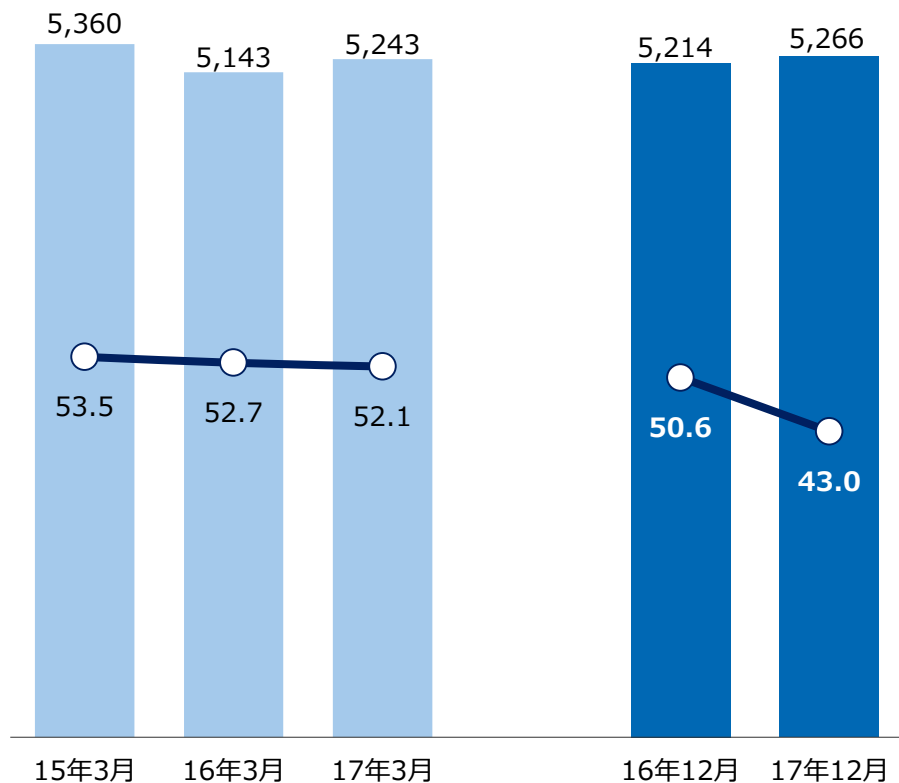


\* 棚卸資産回転月数 = (当期末棚卸資産残高) / (直近3か月の平均売上原価)

## 自己資本・自己資本比率

【億円】

■ 自己資本    ●-○ 自己資本比率



自己資本=親会社の所有者に帰属する持分

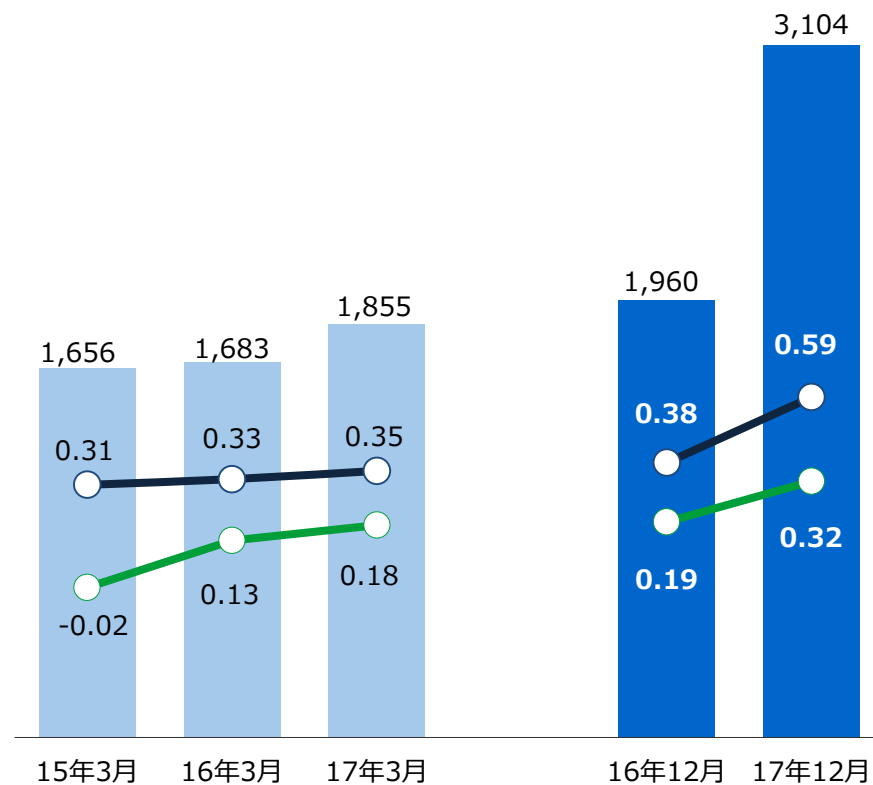
(格付評価用)  
46.9%

自己資本比率=親会社の所有者に帰属する持分/総資産

## 有利子負債・D/Eレシオ

【億円】

■ 有利子負債    ●-○ D/Eレシオ    ●-○ ネットD/Eレシオ



(1,144億円増の内、1,000億円はハイブリッドローン)

	2017年度 業績見通し	2016年度 実績	増減	【億円】
売上高	10,000	9,626	+ 4%	
営業利益	480	501	- 4%	
親会社の所有者に帰属する 当期利益	310	315	- 2%	
為替レート (円)				
USドル	105	108.38		
ユーロ	130	118.79		

## 通期業績 予想

- 為替レート：ユーロのみ10円 円安方向の130円に修正。USドルは105円に据え置く。
- 売上及び利益は前回予想を据え置く。

## 配当予想

- 年間配当:30円/1株（中間配当・期末配当:15円）を据え置く。

		オフィス	プロフェッショナルプリント
粗利	トップライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>• C759シリーズ本格寄与</li> <li>• カラー高速機シフトによる採算改善</li> <li>• MIF, PV増によるノンハード回復基調継続</li> <li>• ハイブリッド販売拡大</li> <li>• 案件採算選別、中堅案件拡大</li> <li>• 中国販売拡大</li> <li>• 獲得大型案件の早期設置</li> <li>• 受注残の早期解消</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IQ-501の付加価値浸透による粗利率向上と商業印刷での需要喚起</li> <li>• C6100シリーズ本格寄与</li> <li>• 新製品ローンチ</li> <li>• MIF・PV増によるノンハード増加継続</li> <li>• 産業印刷の利益寄与開始</li> <li>• 中国・インド販売拡大</li> </ul>
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コストダウン効果拡大</li> <li>• サービス原価低減（故障予知、リモートサポートの拡大）</li> </ul>	
販管費		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Workplace Hub事業立ち上げのため、プリセールスリソースを強化したITサービスでの成果出し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新製品ローンチ前倒しのため上期に積み増した開発費の抑制</li> </ul>

- 中期計画SHINKA2019で挙げた基盤事業の収益力強化の一環として、中期で検討していた国内外での構造改革を今期に前倒しして着手。
- CRE戦略の一環としてのセール&リースバック実施。

対象及び目的		損益への影響	
		FY17	FY18
国内拠点	グループ運営の効率化、グループ内シナジー創出による事業強化	▲10～15億円	▲20～30億円
海外拠点	固定費の変動費化、機能集約	▲30～35億円	
	費用計	▲40～50億円	
CRE戦略	グローバルファシリティ(土地・建物)活用最適化	+100億円規模	

# Appendix

# 2017年度第3四半期 業績詳細



KONICA MINOLTA

【億円】

	FY17 3Q累計	FY16 3Q累計	前年 同期比	FY17 3Q	FY16 3Q	前年 同期比
売上高	7,503	6,996	+ 7%	2,622	2,377	+ 10%
売上総利益	3,575	3,391	+ 5%	1,257	1,120	+ 12%
(売上総利益率)	47.7%	48.5%	-	47.9%	47.1%	-
営業利益	291	345	- 16%	86	159	- 46%
(営業利益率)	3.9%	4.9%	-	3.3%	6.7%	-
税引前利益	271	341	- 20%	81	166	- 51%
(税引前利益率)	3.6%	4.9%	-	3.1%	7.0%	-
親会社の所有者に帰属する当期利益	186	249	- 25%	51	117	- 56%
(親会社の所有者に帰属する当期利益率)	2.5%	3.6%	-	1.9%	4.9%	-
E P S (円)	37.61	50.27		10.32	23.54	
設備投資額	248	275		87	101	
減価償却費及び償却費	413	391		142	137	
研究開発費	570	535		194	173	
FCF	※△ 940	△ 97		△ 1,139	42	
投融資	1,217	364		1,192	0	
為替レート [円] USD	111.70	106.63	5.07	112.98	109.30	3.68
euro	128.53	118.02	10.51	133.01	117.78	15.23

※INCJによる出資を考慮した実質的な累計FCFは△586。

# 2017年度業績見通し 全社業績要約

【億円】

	17年度 業績見通し	16年度 実績	前年 同期比
売上高	10,000	9,626	+ 4%
営業利益	480	501	- 4%
(営業利益率)	4.8%	5.2%	
税引前利益	460	493	- 7%
親会社の所有者に帰属する当期利益	310	315	- 2%
(親会社の所有者に帰属する当期利益率)	3.1%	3.3%	
EPS (円)	62.64	63.65	
ROE* (%)	6.0%	6.3%	
設備投資額	550	389	
減価償却費及び償却費	550	518	
研究開発費	790	733	
FCF (17年度予想は投融資を含めない)	450	△ 19	
*投融資(17年度の計画)	950	367	
	為替レート [円] USD	105.00	108.38
	euro	130.00	118.79

ROE : 親会社の所有者に帰属する当期利益 / 資本金、資本剰余金、利益剰余金、自己株式の合計 (期首・期末平均)

※従来見通しは2017年5月11日公表



# 2017年度業績見通し セグメント別売上高・営業利益

【億円】

売上高	17年度 業績見通し	16年度 実績	前年 同期比
オフィス事業	5,650	5,582	+ 1%
プロフェッショナルプリント事業	2,100	2,040	+ 3%
ヘルスケア事業	950	899	+ 6%
産業用材料・機器事業	1,200	1,016	+ 18%
産業用光学システム	400	293	+ 36%
材料・コンポーネント	800	722	+ 11%
新規事業・コーポレート・連調	100	89	-
全社合計	10,000	9,626	+ 4%

営業利益（右側：営業利益率）	17年度 業績見通し		16年度 実績		前年 同期比
オフィス事業	470	8.3%	434	7.8%	+ 8%
プロフェッショナルプリント事業	110	5.2%	93	4.5%	+ 19%
ヘルスケア事業	65	6.8%	29	3.2%	+ 127%
産業用材料・機器事業	195	16.3%	220	21.7%	- 12%
新規事業・コーポレート・連調	△ 360		△ 274		-
全社合計	480	4.8%	501	5.2%	- 4%

\*16年度については新規開示セグメントに組替しています。

# 2017年度第3四半期 セグメント別売上高/営業利益

## 売上高

FY16/9M

FY17/9M

6,996

7,503

新規事業・コーポレート他

68

105 (+56%)

材料・コンポーネント

553

558 (+1%)

産業用光学システム

188

343 (+83%)

ヘルスケア事業

634

669 (+6%)

プロフェッショナル  
プリント事業

1,482

1,550 (+5%)

オフィス事業

4,073

4,277 (+5%)

## 営業利益

【億円】

FY16/9M

FY17/9M

345

291

産業用材料・機器事業

168

176 (+5%)

ヘルスケア事業

15

39 (+157%)

プロフェッショナル  
プリント事業

68

51 (△25%)

オフィス事業

313

299 (△4%)

新規事業・  
コーポレート他

△  
219

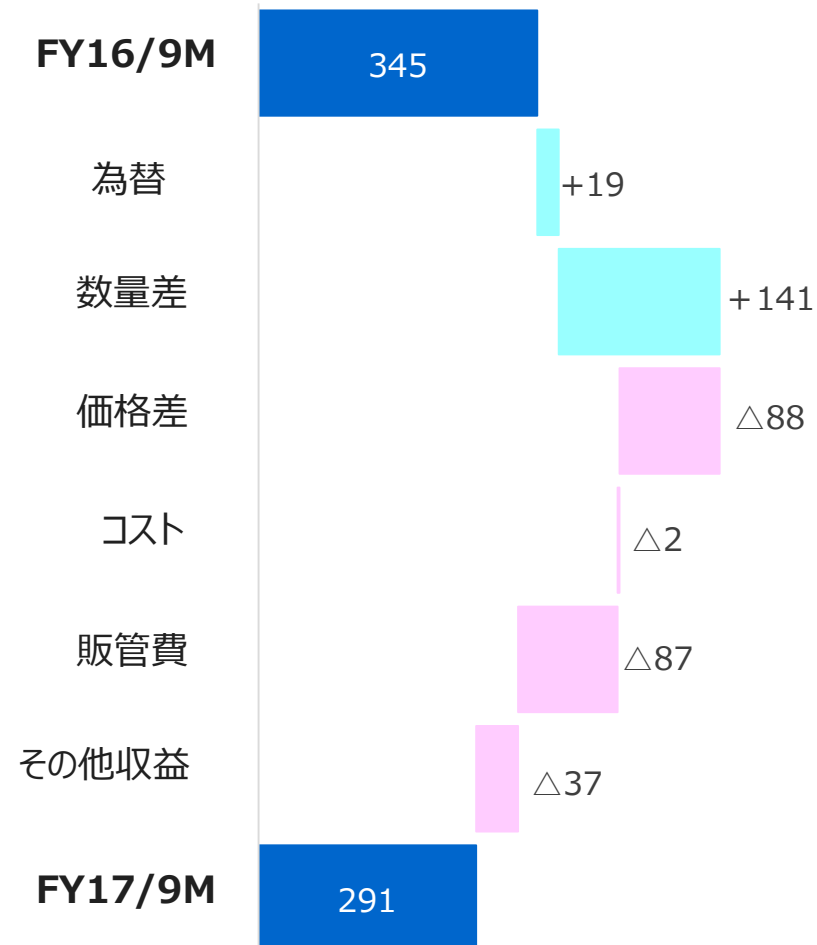
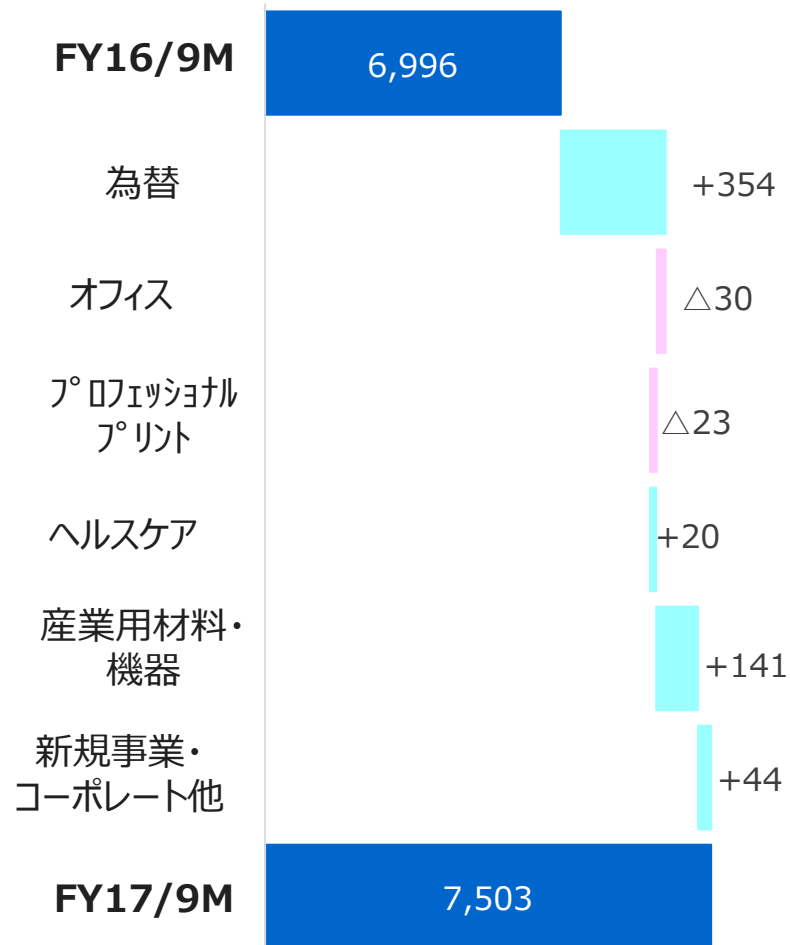
△  
274

# 2017年度 第3四半期 売上高/営業利益 増減分析

## 売上高

## 営業利益

【億円】



# 2017年度 第3四半期 セグメント別営業利益増減分析

## 前年同期比較

(FY17/9M vs. FY16/9M)

【億円】

	オフィス	プロフェッショナル プリント	ヘルスケア	産業用 材料・機器	新規事業・ コーポレート他	合計
<b>【要因】</b>						
為替影響	△ 5	15	4	7	△ 2	19
価格変動	△ 34	△ 17	△ 13	△ 23	-	△ 88
数量増減他	△ 4	8	17	103	17	141
コストダウン	△ 7	△ 2	2	5	△ 1	△ 2
経費増減	△ 3	△ 8	△ 6	△ 4	△ 66	△ 87
その他収益費用	39	△ 14	20	△ 78	△ 3	△ 37
<b>【営業利益】</b>						
増減額（前年同期比）	△ 13	△ 17	24	8	△ 55	△ 54

## 前年同期比較

(FY17/3Q vs. FY16/3Q)

	オフィス	プロフェッショナル プリント	ヘルスケア	産業用 材料・機器	新規事業・ コーポレート他	合計
<b>【要因】</b>						
為替影響	20	11	3	2	△ 2	34
価格変動	8	0	△ 10	△ 10	-	△ 12
数量増減他	△ 14	△ 3	14	39	17	53
コストダウン	9	△ 2	1	2	△ 1	9
経費増減	△ 16	△ 2	△ 2	△ 2	△ 53	△ 75
その他収益費用	△ 4	△ 2	0	△ 79	3	△ 83
<b>【営業利益】</b>						
増減額（前年同期比）	2	1	7	△ 48	△ 35	△ 73

# 販売管理費・その他の収益・費用及び金融収支明細



KONICA MINOLTA

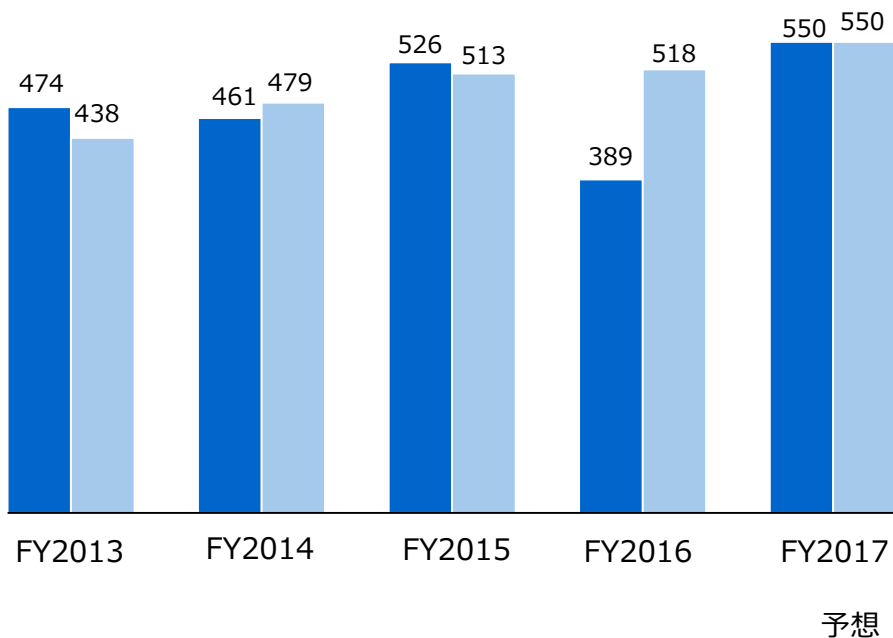
【億円】

	FY17 3Q 累計	FY16 3Q 累計	前年 同期比	FY17 3Q	FY16 3Q	前年 同期比
販売管理費						
販売変動費	371	348	23	134	111	23
研究開発費	570	535	35	194	173	21
人件費	1,490	1,423	67	506	475	31
その他	879	800	79	325	274	51
販売管理費 計	3,310	3,106	204	1,159	1,034	125
	*為替影響額 :			+50億円 (除く為替 +75億円)		
	+116億円 (除く為替 +87億円)					
その他の収益						
有形・無形資産売却益	112	2	110	1	0	1
特許関連収入	-	78	△78	-	78	△78
その他収益	24	26	△2	6	8	△2
その他の収益 計	136	105	31	7	86	△80
その他の費用						
有形・無形資産除売却損	5	6	△1	2	2	△0
退職特別加算金	53	2	52	2	2	1
その他費用	52	37	15	14	10	3
その他の費用 計	111	45	65	18	14	4
金融収支						
受取利息・受取配当金-支払利息	△8	△1	△7	△5	0	△5
為替差損益	△8	1	△10	1	8	△7
その他	△2	△2	△0	△1	△1	0
金融収支 計	△18	△2	△16	△5	8	△12

## 設備投資・減価償却費及び償却費

【億円】

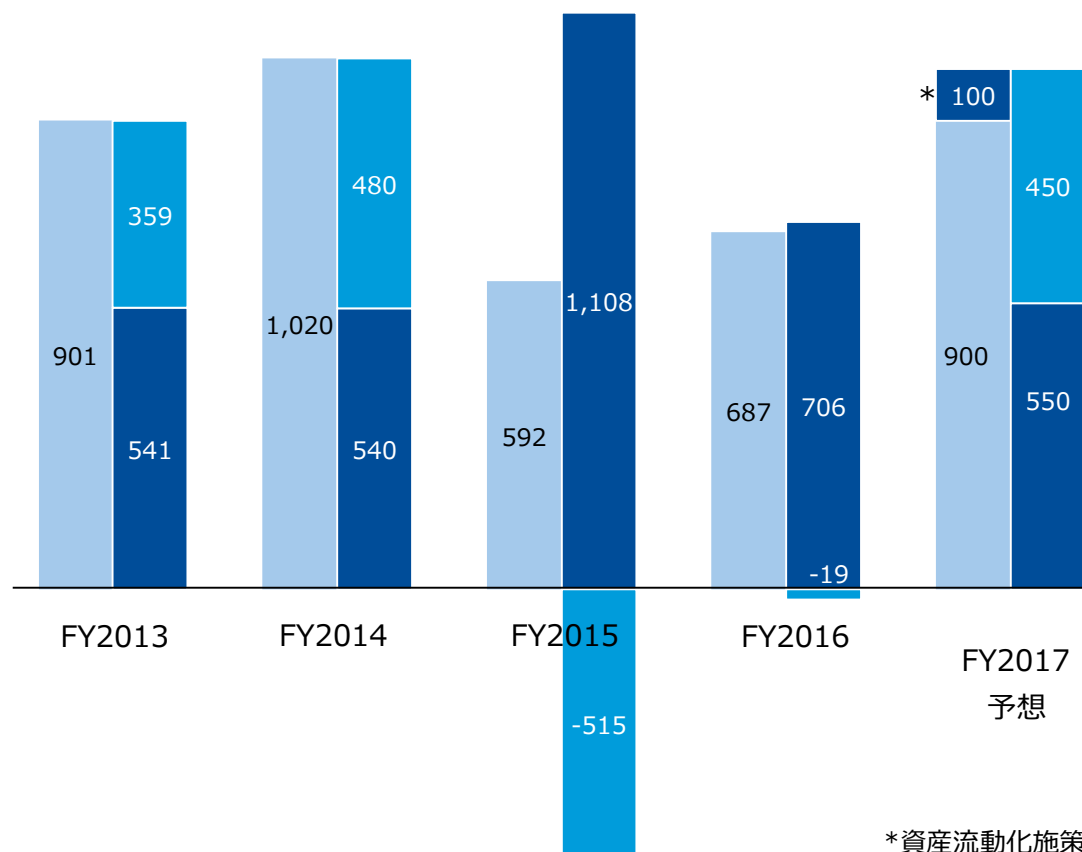
■ 設備投資 ■ 減価償却費及び償却費



## フリーキャッシュフロー

【億円】

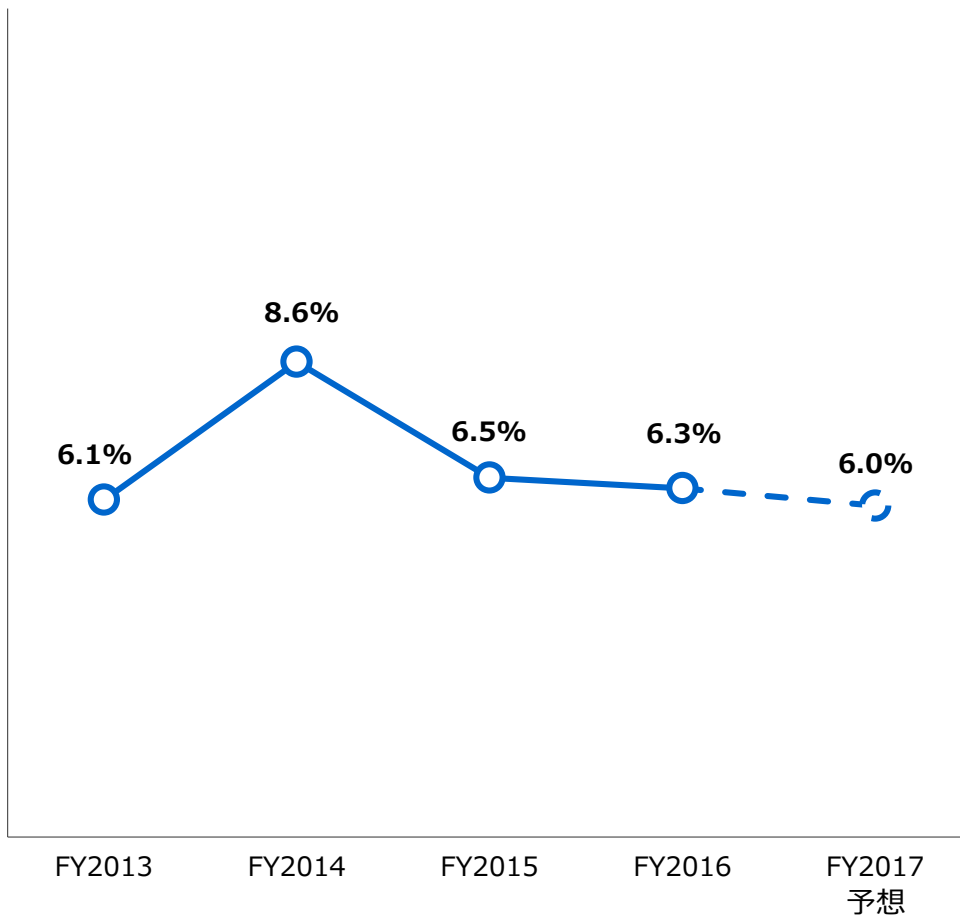
■ 営業キャッシュフロー ■ 投資キャッシュフロー ■ フリーキャッシュフロー



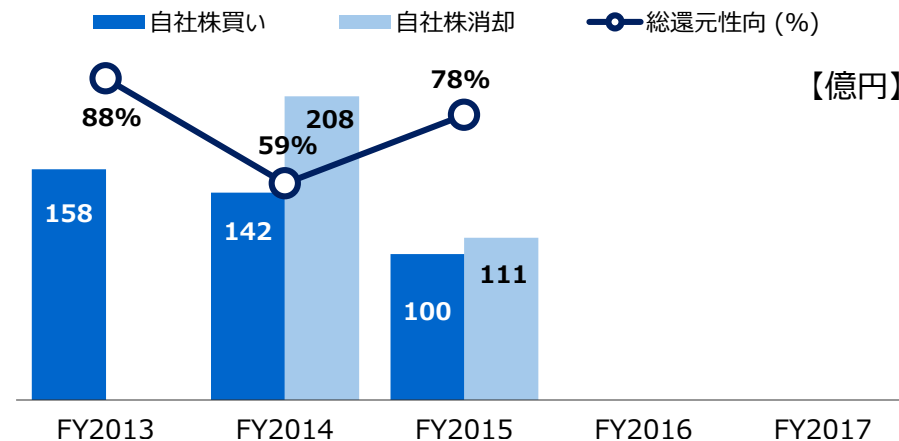
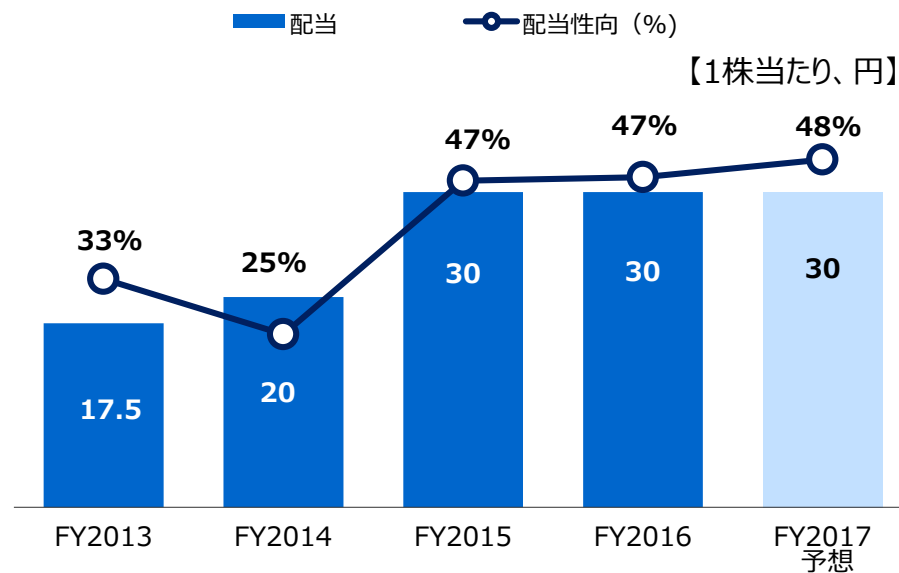
\*資産流動化施策  
\*FCF 17年度予想は投融資を含めない

## ROE

ROE：親会社の所有者に帰属する当期利益／資本金、資本剰余金、利益剰余金、自己株式の合計（期首・期末平均）



## 配当・配当性向・自社株買い



# オフィス事業/プロフェッショナルプリント事業 販売状況（四半期推移）

## ■ 地域別売上高構成比（円貨ベース）

	FY2015				FY2016				FY2017		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
日本	12%	12%	12%	13%	13%	12%	13%	13%	13%	13%	12%
北米	33%	34%	34%	33%	32%	34%	33%	32%	34%	34%	33%
欧州	37%	36%	38%	38%	37%	36%	36%	38%	36%	36%	38%
その他	18%	18%	17%	16%	18%	18%	18%	16%	17%	17%	17%

## ■ 地域別売上高増減（為替除く）

	FY2015				FY2016				FY2017		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
日本	+1%	+1%	+1%	△0%	△1%	△1%	△1%	△2%	+2%	+0%	△1%
北米	+5%	+1%	+3%	+0%	+2%	+3%	+6%	△3%	+2%	+3%	△3%
欧州	+3%	+0%	+3%	+2%	+4%	+4%	+9%	+4%	△1%	+2%	+1%
その他	+20%	△3%	△4%	△1%	+4%	+7%	-12%	△1%	△10%	△8%	△5%

## ■ ハード売上に占めるカラー比率

	FY2015				FY2016				FY2017		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
オフィス	68%	66%	71%	71%	71%	72%	72%	72%	69%	72%	72%
PP	68%	71%	73%	73%	74%	73%	73%	72%	78%	76%	80%

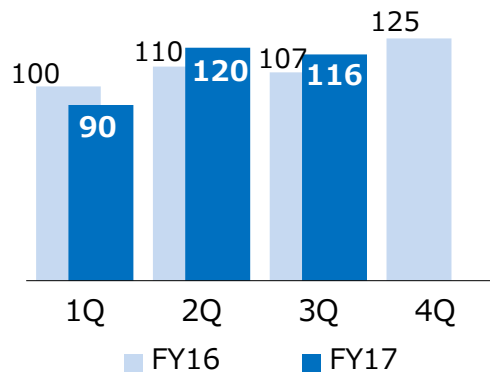


# オフィス事業/プロフェッショナルプリント事業 主要製品販売状況（四半期推移）

## A3カラーMFP 販売台数\*

YoY : +8%

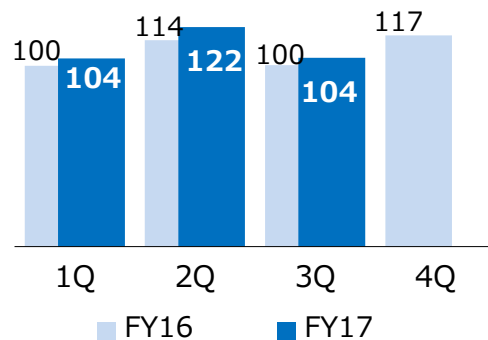
QoQ : △3%



## A3モノクロMFP販売台数

YoY : +4%

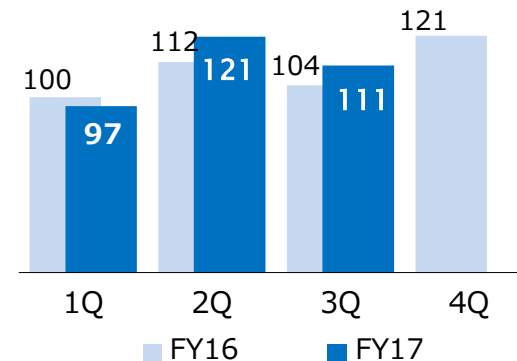
QoQ : △14%



## A3MFPトータル 販売台数\*

YoY : +7%

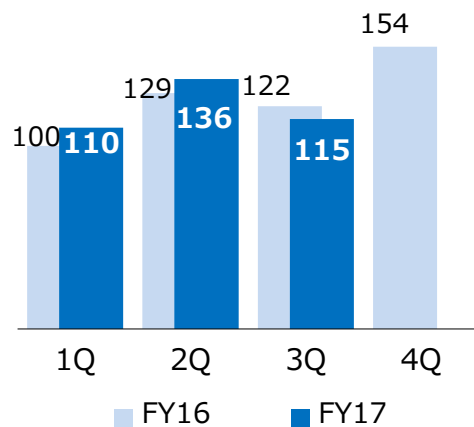
QoQ : △8%



## カラープロダクションプリント 販売台数\*

YoY : △6%

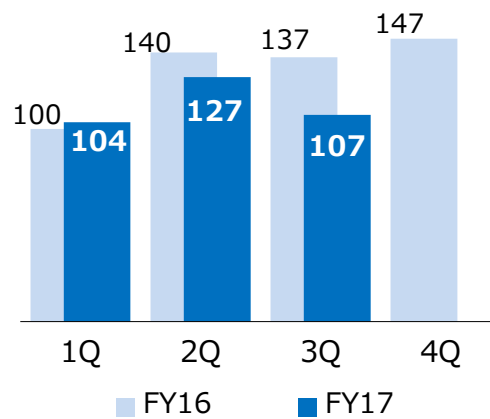
QoQ : △16%



## モノクロプロダクションプリント販売台数

YoY : △22%

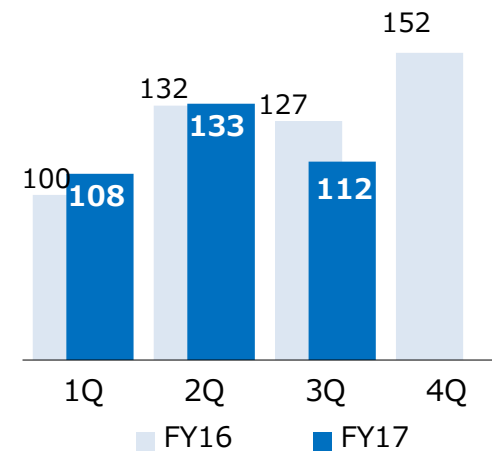
QoQ : △15%



## プロダクションプリント トータル販売台数

YoY : △12%

QoQ : △16%

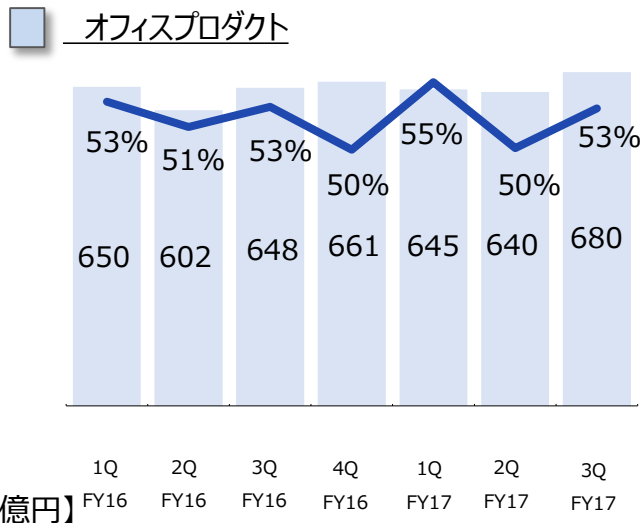


# オフィス事業/プロフェッショナルプリント事業 ノンハード売上

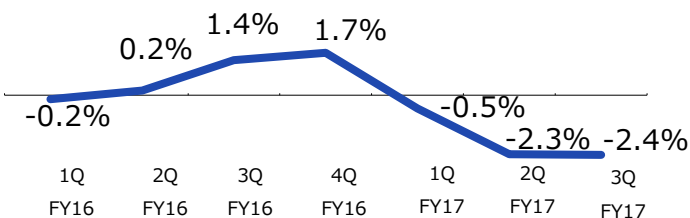


KONICA MINOLTA

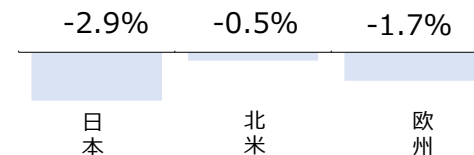
ノンハード売上高・ノンハード比率



【対前年同期】

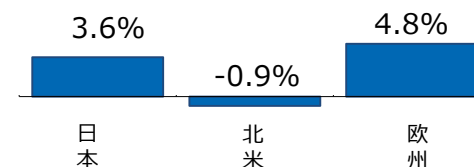
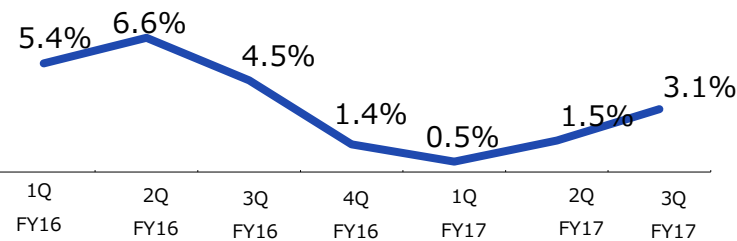
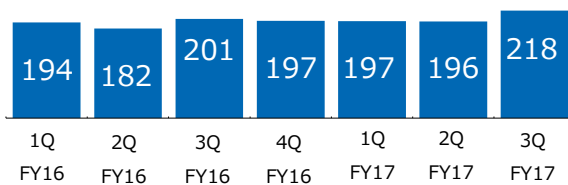
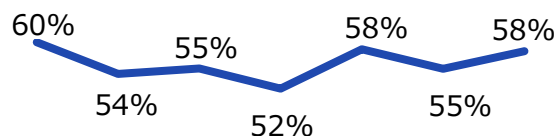


【地域別】



【億円】

## プロダクションプリント



【億円】

# 主な通貨の為替レートと収益影響度：3Q累計

【為替レート：円】

【影響額、感応度：億円】

	FY16	FY17	対前年影響額		為替感応度*2	
	9M	9M	売上高	営業利益	売上高	営業利益
米ドル	106.63	111.70	+ 119	+ 2	+ 31	+ 0
ユーロ	118.02	128.53	+ 140	+ 60	+ 19	+ 7
ポンド	141.86	145.75	+ 9	△ 0	+ 3	+ 1
欧州通貨*1	—	—	+ 181	+ 61	+ 26	+ 11
人民元	15.95	16.64	+ 16	+ 3	+ 28	+ 8
豪ドル	80.02	85.96	+ 17	+ 5	+ 4	+ 1
その他通貨	—	—	+ 20	+ 9	—	—
予約影響額	—	—	—	△ 61	—	—
合計			+ 354	+ 19		

\*1欧州通貨：ユーロ/ポンド以外の欧州通貨も含む

\*2為替感応度：1円変動時の影響額（年間）

現行セグメント	
情報機器事業	オフィスサービス ■ ITサービス・ソリューション ■ オフィス
	商業・産業印刷 ■ 産業印刷 ■ MPM・プリントサービス ■ プロダクションプリント
ヘルスケア事業	■ デジタル (CR / DR / IT) ■ アナログ他
産業用材料 ・ 機器事業	産業用光学システム ■ 計測機器 ■ 産業・プロ用レンズ ■ その他
	機能材料
コーポレート他	



新セグメント	
オフィス事業	■ ITサービス・ソリューション ■ オフィス
プロフェッショナル プリント事業	■ 産業印刷 ■ マーケティングサービス ■ プロダクションプリント
ヘルスケア 事業	■ ヘルスケア (画像診断) ■ 医療IT
産業用材料 ・ 機器事業	産業用光学システム ■ 計測機器 ■ 映像ソリューション(プラネタなど)
	材料・コンポーネント ■ 機能材料 (+OLED・素材) ■ 光学コンポーネント ■ IJ (Inkjet)コンポーネント
新規事業・コーポレート他	

■ 基盤事業    ■ 成長事業    ■ 新規事業

# 2016-2017年度業績：（新セグメントによる四半期推移）

[億円]	FY16				FY17		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
【売上高】							
オフィス事業	1,362	1,325	1,385	1,509	1,330	1,465	1,482
プロフェッショナルプリント事業	475	496	511	558	490	522	539
ヘルスケア事業	185	229	220	266	195	233	240
産業用材料・機器事業	249	251	241	275	287	313	301
産業用光学システム	70	57	61	105	117	115	111
材料・コンポーネント	179	194	180	170	170	198	190
新規事業・コーポレート・連調	21	26	20	21	21	25	60
全社合計	2,291	2,328	2,377	2,629	2,324	2,558	2,622
【営業利益】							
オフィス事業	114	103	96	121	53	148	98
プロフェッショナルプリント事業	16	27	25	25	16	9	26
ヘルスケア事業	2	10	3	14	△ 5	34	10
産業用材料・機器事業	34	30	104	53	61	59	56
新規事業・コーポレート・連調	△ 77	△ 74	△ 68	△ 55	△ 38	△ 132	△ 103
全社合計	89	96	159	157	87	118	86

- **IQ-501(インテリジェントクオリティオプティマイザー) : (プロフェッショナルプリント事業)**  
印刷中の常時監視/調整で色管理・表裏見当調整を自動化し、調整時間を大幅に短縮し、生産時間を拡大するオプションユニット。
- **キンコース : キンコース・ジャパン株式会社 およびキンコース・コリア株式会社 (プロフェッショナルプリント事業)**  
高い提案力と営業力で大都市圏中心にオンデマンド出力サービスを展開。2012年キンコース・ジャパン、2013年にキンコース・コリアを買収。
- **MGI : MGI Digital Graphic Technology (プロフェッショナルプリント事業)**  
フランスに本社を持つ出力機器メーカー。2014年に資本・業務提携を行い、2016年からは連結子会社化。加飾印刷など特殊技術を必要とし、顧客ニーズに密着したユニークな製品を、欧州を中心に北米、アジアへとグローバルに事業展開。
- **DR: Digital Radiography (ヘルスケア事業)**  
デジタルX線ともいう。レントゲン撮影時のX線強度分布をデジタル変換処理を加えてデータ化する手法/システム。
- **OLED : Organic Light Emitting Diode (産業用材料・機器事業)**  
有機ELともいう。電圧をかけると有機物が光る現象を使って照明やディスプレイ製品などに利用される。
- **プレジジョン・メディシン (個別化医療) : (新規事業)**  
最先端の技術を用い細胞を遺伝子・タンパクレベルで分析し、個人レベルで最適な治療法および薬を投与し治療を行う。
- **CRE戦略 (Corporate Real Estate Strategy) : (コーポレート)**  
企業が保有する資産や不動産を有効活用し事業に役立てる企業戦略。
- **S&LB (Sale and Leaseback、セールアンドリースバック) : (コーポレート)**  
保有資産の売却後に、それをリースとして借り入れて使用する施策で、企業戦略の一環として資産を有効利用する方法。





**KONICA MINOLTA**

- **本資料の記載情報**  
本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。
- **将来見通しに係わる記述についての注意事項**  
本資料で記載されている業績予想及び将来予想は、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。